



Canon

キヤノンマーケティングジャパングループ

2019年9月24日

サッポロホールディングス株式会社
キヤノン IT ソリューションズ株式会社

サッポログループが AI 技術を活用した ロジスティクス領域の計画主導型システム導入 ～サッポログループ 3 社の共通システムを構築～

サッポログループは、AI 技術を活用した商品需給計画システムである「Supply Chain Planning (サプライチェーンプランニング) システム (以下 SCPlanning システム)」を導入し、サッポロビール(株)、ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)、サッポログループ物流(株)のグループ3社において、2019年8月から利用を開始しました。

本件は、需要予測から生産計画、供給補充計画までを範囲とする、酒類・飲料・食品のサッポログループ共通システムです。サッポログループとキヤノンマーケティングジャパングループのキヤノン IT ソリューションズ(株) (以下 キヤノン ITS) が共同で標準業務を設計し、キヤノン ITS の「FOREMAST (フォーマスト)」をはじめとする計画系ソリューションを活用してシステムを開発しました。

サッポログループは「ホワイト物流」推進運動に賛同し、「ロジスティクス業務の標準化」および「グループ拠点ネットワークの構築」を中心に、物流の効率化・働きやすさ向上に向け取り組むことを表明しています。SCPlanning システムの導入により、ロジスティクス領域において、カテゴリの異なる商品の業務フロー・システムを統一し、計画主導型のロジスティクス業務を標準化します。これにより、トラックドライバー不足、事業構造の多様化、業務の属人化といった諸課題を克服し、在庫の適正化、物流の平準化、ロジスティクス担当者の働き方改革を実現することで、グループの事業目標達成に向けての大きな役割を担います。

また、2020年上期にさらなる高度化を目指して、意思決定支援・データの精度向上機能をシステムリリース予定です。

物流を取り巻く環境は年々厳しさを増しており、労働力不足や物流コストの増加などの課題が顕在化しています。サッポログループはこの物流クライシスに立ち向かい、キヤノン ITS とともに取り組んでいきます。

■SCPlanning システム導入により実現できること

1. 市場の要求を先に捉える計画主導型業務にシフトし、在庫を適正化。
2. ロジスティクスを起点とした需給調整により輸送を平準化。
3. データ収集・加工・可視化等の自動化による、意思決定を中心とした高度化業務への切り替え。
4. グループ共通システム構築によるシステム投資の効率性向上。

具体的な施策例

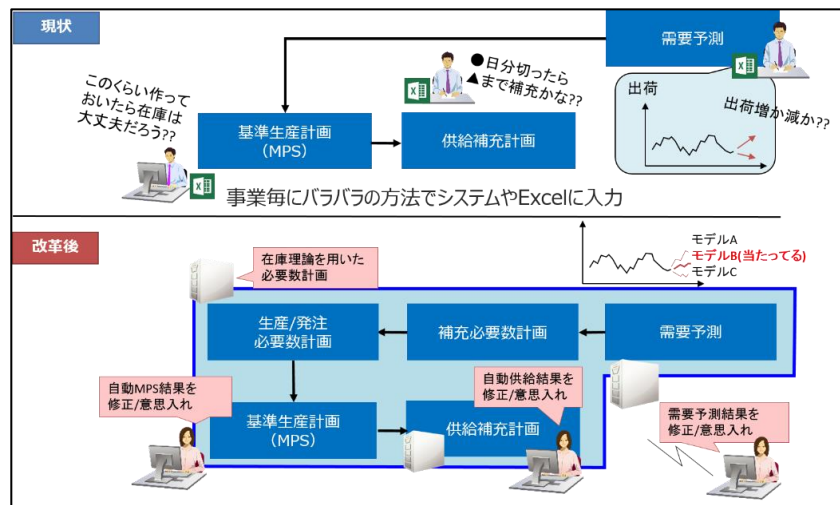


図1. 需給計画業務フローの見直し、グループ内統一

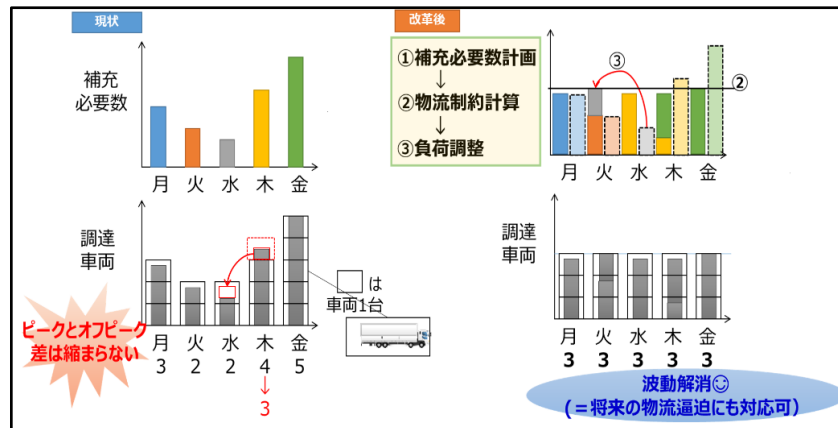


図2. 物流を平準化する補充計画

■SCPlanning システムの特長

酒類・飲料・食品事業を全体最適で支えるシステム技術

ー需要予測・必要数計画：キヤノン ITS の「FOREMAST (フォーマスト)」を採用

ー供給補充計画：物流平準化を可能とする新しいロジックを採用

ーAI 技術：与えた知識をベースに自動選択した需要予測モデルの結果から必要量を決めて、
生産計画や補充計画を自動で立案

以上